

表 1 記述統計量

	男性			女性		
	N	Mean	SD	N	Mean	SD
個人所得	1363	3.08	2.07	1488	1.35	1.17
対数個人所得	1363	0.91	0.73	1488	-0.05	0.94
等価世帯所得	1150	2.97	1.82	1079	2.77	1.75
対数等価世帯所得	1150	0.92	0.61	1079	0.84	0.61
純資産	978	28.65	33.05	789	29.01	32.51
対数純資産	978	4.14	0.40	789	4.14	0.41
40 歳時所属階級 1	1361			1417		
専門 (%)	157	11.54		118	8.33	
大 W (%)	312	22.92		117	8.26	
小 W (%)	84	6.17		152	10.73	
自 W (%)	56	4.11		135	9.53	
大 B (%)	217	15.94		55	3.88	
小 B (%)	339	24.91		197	13.90	
自 B (%)	126	9.26		77	5.43	
農業 (%)	53	3.89		78	5.50	
無業 (%)	17	1.25		488	34.44	
40 歳時所属階級 2	1275			1243		
専門一貫 (%)	114	8.94		90	7.24	
専門参入 (%)	39	3.06		21	1.69	
大 W 一貫 (%)	197	15.45		61	4.91	
大 W 参入 (%)	96	7.53		38	3.06	
小 W 一貫 (%)	19	1.49		26	2.09	
小 W 参入 (%)	50	3.92		73	5.87	
自 W 一貫 (%)	14	1.10		22	1.77	
自 W 参入 (%)	34	2.67		74	5.95	
大 B 一貫 (%)	116	9.10		17	1.37	
大 B 参入 (%)	93	7.29		30	2.41	
小 B 一貫 (%)	201	15.76		79	6.36	
小 B 参入 (%)	116	9.10		86	6.92	
自 B 一貫 (%)	22	1.73		8	0.64	
自 B 参入 (%)	96	7.53		60	4.83	
農業一貫 (%)	43	3.37		39	3.14	
農業参入 (%)	8	0.63		31	2.49	
無業 (%)	17	1.33		488	39.26	
最長勤務先割合	1499	0.76	0.22	1614	0.46	0.29
無業経験の有無	1499			1614		
無業経験なし (%)	1258	83.92		343	21.25	
無業経験あり (%)	241	16.08		1271	78.75	
従業上の地位	1496			1611		
役員・正規雇用 (%)	198	13.24		78	4.84	
非正規雇用 (%)	283	18.92		255	15.83	
自営・家族従業 (%)	266	17.78		201	12.48	
内職・無業 (%)	749	50.07		1077	66.85	
年齢	1499	68.99	5.55	1614	69.18	5.84
学歴	1498			1609		
中学 (%)	359	23.97		485	30.14	
高校 (%)	734	49.00		906	56.31	
短大高専 (%)	23	1.54		127	7.89	
大学大学院 (%)	382	25.50		91	5.66	
婚姻状態	1499			1612		
未婚 (%)	74	4.94		47	2.92	
初婚 (%)	1240	82.72		1110	68.86	
再婚 (%)	44	2.94		34	2.11	
離別 (%)	65	4.34		96	5.96	
死別 (%)	76	5.07		325	20.16	
N	1499			1614		

表 2 対数個人所得への OLS 回帰分析

	男性				女性			
	Model 1	Model 2	Model 3	Model 4	Model 1	Model 2	Model 3	Model 4
従業上の地位 (ref: 経営者・正規雇用)								
非正規雇用	-0.53***	-0.52***	-0.52***	-0.51***	-0.64***	-0.65***	-0.57***	-0.57***
自営・家族従業	-0.45***	-0.45***	-0.44***	-0.43***	-0.65***	-0.65***	-0.65***	-0.65***
内職・無業	-0.89***	-0.89***	-0.89***	-0.85***	-1.41***	-1.38***	-1.33***	-1.33***
年齢 - 60	0.05***	0.05***	0.05***	0.05***	0.14***	0.15***	0.15***	0.15***
(年齢 - 60) <sup>2</sup>	-0.00**	-0.00**	-0.00**	-0.00**	-0.00***	-0.01***	-0.01***	-0.01***
学歴 (ref: 大学大学院)								
中学	-0.33***	-0.32***	-0.30***	-0.30***	-0.39***	-0.35**	-0.31**	-0.31**
高校	-0.13*	-0.12*	-0.11*	-0.11*	-0.25*	-0.19†	-0.18†	-0.18†
短大高専	0.05	0.04	0.05	0.06	-0.29*	-0.28*	-0.21†	-0.21†
婚姻状態 (ref: 既婚)								
未婚	-0.50***	-0.50***	-0.48***	-0.43***	0.52***	0.52***	0.40**	0.41**
再婚	-0.11	-0.06	-0.08	-0.06	-0.34*	-0.31*	-0.23	-0.23
離別	-0.39***	-0.35***	-0.36***	-0.30**	0.38***	0.36***	0.41***	0.41***
死別	-0.24**	-0.24**	-0.24**	-0.26**	0.46***	0.45***	0.45***	0.45***
40 歳時所属階級 1 (ref: 専門)								
大 W	0.02		0.01	0.02	-0.08		-0.03	-0.03
小 W	-0.40***		-0.36***	-0.35***	-0.43***		-0.31**	-0.31**
自 W	-0.32**		-0.30**	-0.31**	-0.45***		-0.48***	-0.48***
大 B	-0.01		-0.01	-0.01	-0.14		-0.07	-0.07
小 B	-0.32***		-0.30***	-0.30***	-0.37***		-0.21†	-0.21†
自 B	-0.24*		-0.22*	-0.23*	-0.56***		-0.59***	-0.59***
農業	-0.39***		-0.42***	-0.43***	-0.70***		-0.79***	-0.78***
無業	-0.71***		-0.57**	-0.41*	-0.61***		-0.22*	-0.22*
40 歳時所属階級 2 (ref: 専門一貫)								
専門参入		-0.09				-0.51**		
大 W 一貫		0.01				-0.18		
大 W 参入		-0.08				-0.19		
小 W 一貫		-0.36*				-0.55**		
小 W 参入		-0.45***				-0.51***		
自 W 一貫		-0.42*				-0.41*		
自 W 参入		-0.33*				-0.59***		
大 B 一貫		0.01				-0.32		
大 B 参入		-0.12				-0.20		
小 B 一貫		-0.34***				-0.51***		
小 B 参入		-0.39***				-0.43**		
自 B 一貫		-0.34*				-0.74*		
自 B 参入		-0.25*				-0.67***		
農業一貫		-0.38**				-0.95***		
農業参入		-0.64**				-0.60**		
無業		-0.75***				-0.70***		
最長勤務先割合			0.30**	0.21*			0.84***	0.86***
無業経験あり				-0.26***				0.03
Constant	1.68***	1.70***	1.41***	1.50***	0.92***	0.93***	0.23	0.19
R <sup>2</sup>	0.304	0.308	0.310	0.323	0.341	0.347	0.367	0.367
Adj. R <sup>2</sup>	0.293	0.295	0.298	0.311	0.331	0.335	0.356	0.356
N		1499				1614		

†  $p < 0.1$ , \*  $p < 0.05$ , \*\*  $p < 0.01$ , \*\*\*  $p < 0.001$ 

注) 値は係数を示す。標準誤差は省略した。

表 3 対数等価世帯所得への OLS 回帰分析

	男性				女性			
	Model 1	Model 2	Model 3	Model 4	Model 1	Model 2	Model 3	Model 4
従業上の地位 (ref: 経営者・正規雇用)								
非正規雇用	-0.33***	-0.35***	-0.32***	-0.32***	-0.28**	-0.26**	-0.28**	-0.28**
自営・家族従業	-0.24***	-0.25***	-0.23***	-0.23***	-0.09	-0.06	-0.09	-0.09
内職・無業	-0.54***	-0.56***	-0.54***	-0.53***	-0.48***	-0.43***	-0.47***	-0.47***
年齢 - 60	0.02†	0.02*	0.02†	0.02†	-0.01	-0.00	-0.01	-0.00
(年齢 - 60) <sup>2</sup>	-0.00	-0.00	-0.00	-0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
学歴 (ref: 大学大学院)								
中学	-0.33***	-0.34***	-0.31***	-0.31***	-0.35***	-0.35***	-0.34***	-0.34***
高校	-0.17***	-0.17***	-0.16**	-0.15**	-0.13	-0.14†	-0.13	-0.13
短大高専	-0.04	-0.04	-0.05	-0.04	0.07	0.07	0.07	0.07
婚姻状態 (ref: 既婚)								
未婚	-0.32***	-0.32***	-0.30***	-0.29***	-0.41***	-0.39***	-0.42***	-0.42***
再婚	-0.01	0.03	0.02	0.02	-0.19†	-0.20†	-0.18	-0.18
離別	-0.29***	-0.25***	-0.27***	-0.25**	-0.37***	-0.38***	-0.37***	-0.36***
死別	-0.13	-0.15*	-0.13†	-0.14†	-0.33***	-0.34***	-0.33***	-0.33***
40 歳時所属階級 1 (ref: 専門)								
大 W	0.05		0.04	0.05	0.06		0.06	0.06
小 W	-0.16†		-0.13	-0.13	0.04		0.05	0.05
自 W	-0.18†		-0.16	-0.17	-0.13		-0.14	-0.13
大 B	-0.01		-0.02	-0.02	-0.02		-0.02	-0.02
小 B	-0.23***		-0.21**	-0.21**	-0.16†		-0.15†	-0.15
自 B	-0.13		-0.12	-0.13	-0.35**		-0.36**	-0.35**
農業	-0.18†		-0.21†	-0.21*	-0.19		-0.20	-0.20
無業	-0.62***		-0.52**	-0.47**	-0.08		-0.05	-0.04
40 歳時所属階級 2 (ref: 専門一貫)								
専門参入		-0.02				-0.11		
大 W 一貫		0.03				0.05		
大 W 参入		0.07				0.02		
小 W 一貫		0.16				-0.09		
小 W 参入		-0.30**				0.06		
自 W 一貫		-0.08				0.01		
自 W 参入		-0.23†				-0.20		
大 B 一貫		0.01				-0.08		
大 B 参入		-0.06				-0.02		
小 B 一貫		-0.22**				-0.20†		
小 B 参入		-0.27**				-0.16†		
自 B 一貫		-0.10				-0.62*		
自 B 参入		-0.15				-0.33**		
農業一貫		-0.19				-0.16		
農業参入		-0.22				-0.28		
無業		-0.65***				-0.11		
最長勤務先割合 無業経験あり			0.23**	0.21*			0.08	0.11
Constant	1.50***	1.51***	1.29***	1.32***	1.59***	1.57***	1.52***	1.48***
R <sup>2</sup>	0.233	0.246	0.238	0.240	0.216	0.228	0.216	0.217
Adj. R <sup>2</sup>	0.221	0.231	0.225	0.227	0.203	0.215	0.203	0.203
N		1499				1614		

†  $p < 0.1$ , \*  $p < 0.05$ , \*\*  $p < 0.01$ , \*\*\*  $p < 0.001$ 

注) 値は係数を示す。標準誤差は省略した。

表 4 対数純資産への OLS 回帰分析

	男性				女性				
	Model 1	Model 2	Model 3	Model 4	Model 1	Model 2	Model 3	Model 4	
年齢 - 60	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	
(年齢 - 60) <sup>2</sup>	-0.00	-0.00	-0.00	-0.00	-0.00	-0.00	-0.00	-0.00	
学歴 (ref: 大学大学院)									
中学	-0.23***	-0.22***	-0.20***	-0.19***	-0.45***	-0.43***	-0.44***	-0.44***	
高校	-0.14***	-0.12***	-0.12***	-0.12***	-0.26***	-0.22**	-0.24***	-0.24***	
短大高専	-0.06	-0.03	-0.07	-0.06	-0.07	-0.04	-0.06	-0.06	
婚姻状態 (ref: 既婚)									
未婚	-0.18**	-0.17**	-0.15*	-0.14*	-0.18†	-0.20*	-0.20*	-0.19†	
再婚	-0.14†	-0.12†	-0.11	-0.10	-0.08	-0.07	-0.07	-0.07	
離別	-0.20**	-0.17**	-0.17*	-0.16*	-0.31***	-0.31***	-0.30***	-0.30***	
死別	-0.15*	-0.16**	-0.15*	-0.15*	-0.15***	-0.14***	-0.16***	-0.16***	
40 歳時所属階級 1 (ref: 専門)									
大 W	0.10*		0.09*	0.10*	0.02		0.03	0.03	
小 W	0.02		0.06	0.06	-0.09		-0.06	-0.06	
自 W	0.00		0.03	0.02	0.03		0.02	0.03	
大 B	-0.01		-0.01	-0.01	-0.10		-0.09	-0.09	
小 B	-0.09†		-0.06	-0.06	-0.22**		-0.19*	-0.19*	
自 B	-0.02		-0.00	-0.01	-0.08		-0.09	-0.08	
農業	-0.02		-0.05	-0.06	-0.11		-0.14	-0.13	
無業	-0.12		0.02	0.05	-0.09		-0.02	-0.02	
40 歳時所属階級 2 (ref: 専門一貫)									
専門参入		-0.14†				-0.16			
大 W 一貫		0.06				-0.02			
大 W 参入		0.04				-0.02			
小 W 一貫		0.06				-0.05			
小 W 参入		-0.06				-0.16†			
自 W 一貫		0.00				0.06			
自 W 参入		-0.07				-0.02			
大 B 一貫		-0.02				-0.14			
大 B 参入		-0.09				-0.15			
小 B 一貫		-0.11†				-0.21*			
小 B 参入		-0.19*				-0.32**			
自 B 一貫		0.05				0.05			
自 B 参入		-0.11				-0.14			
農業一貫		-0.05				-0.22†			
農業参入		-0.20				-0.05			
無業		-0.16				-0.14†			
最長勤務先割合			0.30***	0.29***			0.14	0.17	
無業経験あり				-0.05				0.03	
Constant	4.24***	4.27***	3.98***	4.00***	4.47***	4.49***	4.37***	4.33***	
R <sup>2</sup>	0.140	0.151	0.160	0.162	0.216	0.228	0.221	0.222	
Adj. R <sup>2</sup>	0.129	0.136	0.148	0.149	0.205	0.216	0.209	0.210	
N		1499					1614		

†  $p < 0.1$ , \*  $p < 0.05$ , \*\*  $p < 0.01$ , \*\*\*  $p < 0.001$ 

注) 値は係数を示す。標準誤差は省略している。

表 5 従属変数間の相関係数行列

[A] 男性			[B] 女性			
	個人所得	等価世帯所得	純資産	個人所得	等価世帯所得	純資産
個人所得		.767	.331	個人所得		.181
等価世帯所得	.764		.408	等価世帯所得	.295	.405
純資産	.276	.332		純資産	.084	.388

注) 右上は対数変換前の値で計算した pearson の相関係数, 左下は対数変換後の値で計算した pearson の相関係数, 値はすべて 5% 水準で有意.

## 分析に用いる調査データの詳細

2015 年 SSM 調査は, 2014 年末時点で 20-79 歳の日本国籍をもつ男女を母集団とし, 2015 年 SSM 調査研究会により実施された. 標本抽出は全国 800 地点からの層化 2 段無作為抽出により, 調査は 2015 年 1 月 31 日から 7 月 26 日にかけて行われた. 有効回収数は 7817 (有効回収率は 50.1%) であった.

## 個人所得の定義

2015 年 SSM 調査データでは, 個人収入の内訳について, 6 つの項目それぞれの合計が 100% になるように, その割合を尋ねている. そのうちの 1 つに「臨時的収入 (退職金・不動産売買など)」という項目がある. 臨時的収入を含む場合, 個人所得の値は個人の安定的な所得とはかけ離れたものとなるおそれがある. そこでこの項目に 1% 以上の値を回答した場合はその値を個人所得から減じる. 例えば, 個人年収を尋ねる質問への回答で「1000 万円位 (950~1,050 万円未満)」を選択し, 年収の内訳を尋ねる質問に「臨時的収入 (退職金・不動産売買など)」が 70% と回答している者の個人所得は,  $1000 - 1000 \times 70 = 300$  万円と定義される.

## 純資産の定義と変換

2015 年 SSM 調査では, 「あなたのご家族 [生計をともにしている家族] で所有している資産は, 時価でどのくらいになりますか. おおよそで結構ですので, ローンなどの借金額を引かず, (ア) 預貯金・株式などの金融資産, (イ) 不動産, (ウ) 全ての資産 (合計) のそれぞれについてもっとも近いと思われる番号に○をつけてください」という質問によって総資産額を尋ねている. さらに, 「あなたのご家族 [生計をともにしている家族] 全体で, 住宅ローンなどこれから返済しなければならない残額はありますか」という質問によって負債額を尋ねている. 前者の回答の値から後者の回答の値を減じることによって純資産額を算出している. 設定された回答区間の中点をとって連続変数とみなす際に, もっとも高いカテゴリである「1 億円以上」を選択した者の値は 1.4 億円とみなした.

純資産額はスライド p.11 に示すように正規分布からはかけ離れた分布を呈しており, 回帰分析の仮定を満たさない可能性が高い. しかし負の値を含む場合, 右に歪んだ分布を正規分布に近づけるために用いられる自然対数変換を施すことができない. そこでここでは, 定数を加えることですべての値を正の値とする変換を行うことでこの問題に対処する (Wicklin (2011), 2017 年 11 月 2 日最終閲覧, <https://blogs.sas.com/content/iml/2011/04/27/log-transformations-how-to-handle-negative-data-values.html>). ただしここでの係数

は通常の log-linear 型の重回帰分析と同じ解釈はできない点に注意されたい。なお、データの変換を行わず純資産をそのまま従属変数とした推定、および純資産を 0 で打ち切った Type-1 トービットモデルを用いた推定を行ったが、本研究の結論に大きな違いが生じないことを確認した。なお 3 つの推定のなかでは、本分析で使用した定数を加える変換がもっとも分散説明率が高い。

## 謝辞

本研究は JSPS 科研費特別推進研究事業 (課題番号 JS25000001) に伴う成果の一つであり、本データ使用にあたっては 2015 年 SSM 調査データ管理委員会の許可を得た。分析に用いたデータは 2017 年 2 月 27 日版 (バージョン 070) のデータである。

本研究の内容は 2016 年 11 月 4 日の IARU Aging, Longevity, and Health Initiative Graduate Student Conference and Committee Meetings, および 2016 年 12 月 27 日, 2017 年 6 月 3 日, 2017 年 9 月 6 日の SSM 研究会テーマ別部会 (労働市場 1) にて報告し、いずれも参加者の方々より有益なコメントをいただいた。さらに本研究の内容に関して白波瀬佐和子先生より、多重代入法の使用に関して豊永耕平さんより、それぞれ有益なご指摘をいただいた。以上、記して感謝申し上げる。

## 参考文献

- Cristal, Stephen and Dennis Shea, 1990, "The Economic Well-being of the Elderly," *Review of Income and Wealth*, 36(3): 227-47.
- Dannefer, Dale, 2003, "Cumulative Advantage/Disadvantage and the Life Course: Cross-fertilizing Age and Social Science Theory," *Journal of gerontology*, 58(6): S327-37.
- DiPrete, Thomas A. and Gregory M. Eirich, 2006, "Cumulative Advantage as a Mechanism for Inequality: A Review of Theoretical and Empirical Developments," *Annual Review of Sociology*, 32: 271-97.
- Elder Jr., Glen H., Monica Kirkpatrick Johnson, and Robert Crosnoe, 2003, "The Emergence and Development of Life Course Theory," Jeylan T. Mortimer and Michael J. Shanahan eds., *Handbook of the Life Course*, New York: Kluwer Academic/Plenum Publishers, 3-19.
- Henretta, John C and Richard T Campbell, 1978, "Net Worth as an Aspect of Status," *American Journal of Sociology*, 83(5): 1204-23.
- Merton, Robert K, 1968, *Social Theory and Social Structure*, New York: Free Press.
- O'Rand, Angela M, 1996, "The Precious and the Precocious: Understanding Cumulative Disadvantage and Cumulative Advantage over the Life Course.," *Gerontologist*, 36(2): 230-8.
- Spilerman, Seymour, 2000, "Wealth and Stratification Processes," *Annual Review of Sociology*, 26: 497-524.
- Van Buuren, Stef, 2012, *Flexible Imputation of Missing Data*, Chapman & Hall/CRC Press.
- 宮澤健介, 2010, 「税制及び退職金・企業年金制度とその経済学的含意」『日本労働研究雑誌』605: 76-93.
- 木村好美, 2001, 「「過去の職業」と老後の生活」嶋崎尚子編『家族と職業 家族生活についての全国調査 (NFR98) 報告書 No. 2-7』日本家族社会学会・全国家族調査 (NFR) 研究会, 41-54.

- , 2002, 「「過去の職業」による老後の所得格差」『理論と方法』17(2): 151-65.
- 白波瀬佐和子, 2000, 「女性の就業と階級構造」盛山和夫編『日本の階層システム 4: ジェンダー・市場・家族』東京大学出版会, 133-55.
- , 2009, 『日本の不平等を考える』東京大学出版会.
- 白波瀬佐和子・竹内俊子, 2009, 「人口高齢化と経済格差拡大・再考」『社会学評論』60(2): 259-78.
- 原純輔, 1979, 「職業経歴の分析」富永健一編『日本の階層構造』東京大学出版会, 198-231.
- 清家篤・山田篤弘, 1998, 「Pension Rich の条件」八田達夫・八代尚宏編『社会保険改革』日本経済新聞社, 99-125.
- 清家篤・山田篤裕, 2004, 『高齢者就業の経済学』日本経済新聞社.
- 岩井八郎, 2011, 「高齢者の社会的地位と格差」佐藤嘉倫・尾嶋史章編『現代の階層社会 1: 格差と多様性』, 191-206.
- 大竹文雄, 2005, 『日本の不平等——格差社会の幻想と未来』日本経済新聞社.
- 渡辺勉・佐藤嘉倫, 1999, 「職歴にみる戦後日本の労働市場」『社会学評論』50(2): 197-215.
- 渡辺勉, 2011, 「職歴からみる雇用の流動化と固定化——職業経歴の多様性」石田浩・近藤博之・中尾啓子編『現代の階層社会 2: 階層と移動の構造』東京大学出版会, 173-87.
- 野呂芳明, 2002, 「職業キャリアと高齢期の社会階層」平岡公一編『高齢期と社会的不平等』東京大学出版会, 111-32.
- 小塩隆士, 2006, 「所得格差の推移と再分配政策の効果」小塩隆士・田近栄治・府川哲夫編『日本の所得分配——格差拡大と政策の役割』東京大学出版会, 11-38.
- 麦山亮太, 2017, 「キャリアの中断が生み出す格差——正規雇用獲得への持続的影響に着目して」『社会学評論』68(2): 248-64.
- 盛山和夫・都築一治・佐藤嘉倫・中村隆, 1990, 「職歴移動の構造——労働市場の構造とキャリア・パターン」直井優・盛山和夫編『現代日本の階層構造 1 社会階層の構造と過程』東京大学出版会, 83-108.